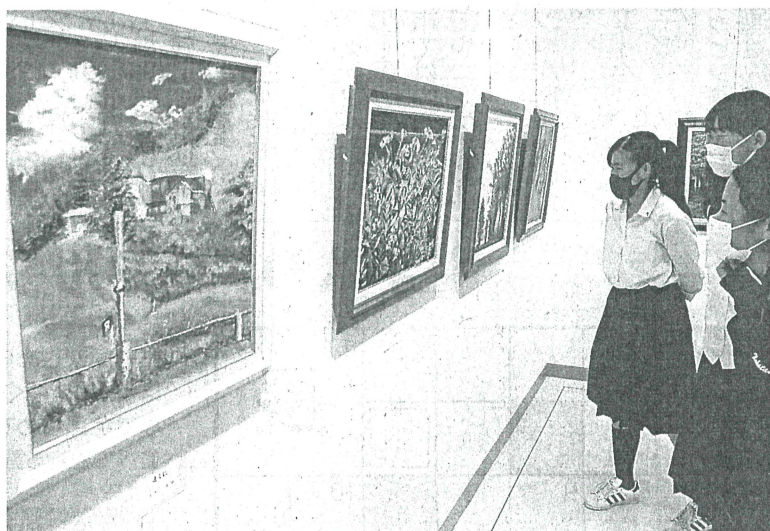


合宿の成果 油彩画披露

明石高美術科1年生が描いた油彩の風景画が
並ぶ秋季作品展＝明石市東仲ノ町



明石高美術科1年の39点アスペア

今春入学した明石高美術科の1年生が、アスペア明石（明石市東仲ノ町）のスマイルギャラリーで油彩の風景画を展示している。夏のスケッチ合宿で一気に描き上げた39点が並ぶ。7日まで。

同科の新生は神鍋高原（豊岡市）で毎夏、2泊3日の合宿をする。場所や構図の選定を含め、12時間で絵を仕上げ、後日の修整はしないのが慣例という。

同校によると、今年は新型コロナウイルスの影響で新学期が6月にずれ込み、油彩を学ぶ授業が例年通りに確保できなかった。この風景画が初めての本格的な

油彩という生徒も多い。山並みや小道の風景、建物や工作物など素材一つを取っても生徒の試行錯誤の跡がうかがえ、どの作品もキャンバスに収まりきれない可能性を感じさせる。

「広葉樹の幹の力強さをしっかりと描けた」と語ったのは東郷荘太郎さん（16）＝加古川市。その一方で「光の当たり方が不自然。アンクル（視点）を上げて主人公（幹）をもっと目立たせたい」と改善点を見いだしていた。

（吉本晃司）